



JCRファーマ株式会社

2026年3月期第3四半期決算説明会

2026年1月28日

イベント概要

[企業名]	J C R ファーマ株式会社
[企業 ID]	4552
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2026 年 3 月期第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2026 年 3 月期 第 3 四半期
[日程]	2026 年 1 月 28 日
[ページ数]	27
[時間]	18:00 – 18:57 (合計：57 分、登壇：19 分、質疑応答：38 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	2 名 上席執行役員 経営戦略担当 経営戦略本部長 伊藤 洋 (以下、伊藤) エキスパートフェロー 谷澤 和紀 (以下、谷澤)

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



[アナリスト名]*	シティグループ証券	山口 秀丸
(敬称略)	モルガン・スタンレーMUFG証券	村岡 真一郎
	大和証券	橋口 和明
	野村証券	前田 晃太
	ジェフリーズ証券	山木田 雅

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：ただ今より JCR ファーマ株式会社、2026 年 3 月期第 3 四半期決算説明会を開催いたします。



注意事項

Life is Rare

- 本資料におきまして、当社に関する業績、その他予想、見通し、目標、計画、その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる可能性があります。
- 本資料には医薬品・医療機器（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイス等を目的とするものではありません。
- 本資料の数字は百万円以下切り捨て、パーセンテージを任意の位で四捨五入し表示しています。そのため、合計数時に差異が生じる場合があります。

説明会の開始前に、ご視聴の皆様にお断り申し上げます。本日の説明におきまして、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がありますが、それらは全てリスクならびに不確実性を伴っていることを、あらかじめご了承ください。

また本日の説明、および使用する資料は、株主、投資家や報道関係者の皆様への、当社事業の情報提供を目的としたものです。開発品、および医薬品に関する情報は宣伝広告、医学的アドバイス等を目的とするものではありません。また、本日のプレゼンテーション、および質疑応答に関しましては後日、弊社公式ホームページにて、スクリプトを配信いたします。

それでは、本日の登壇者をご紹介します。上席執行役員経営戦略本部長、伊藤洋。エキスパートフェロー、谷澤和紀。以上、2名でございます。

本日の資料は弊社ホームページに、本日 17 時に掲載いたしました。お手元に資料が必要な方は、恐れ入りますがそちらをご参照ください。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



本説明会はプレゼンテーション、および質疑応答を含めた約1時間を予定しております。ご質問はプレゼンテーションが全て終了した後、まとめてお受けいたします。質疑応答のお時間は、約40分を予定しております。

それでは伊藤より、2026年3月期第3四半期、連結業績についてご説明いたします。よろしくお願いいたします。



連結決算概要

Life is Rare

(単位：百万円)

連結	2025年3月期	2026年3月期			
	Q3累計	Q3累計	前年同期比		年間進捗率
			増減額	増減率	
売上高	25,880	30,353	+4,472	+17.3%	76.8%
売上原価	7,007	6,767	△239	△3.4%	72.0%
売上総利益	18,873	23,585	+4,712	+25.0%	78.4%
販売費及び一般管理費	19,627	23,158	+3,530	+18.0%	78.0%
販売・一般管理費	9,702	9,786	+83	+0.9%	74.1%
研究開発費	9,925	13,372	+3,447	+34.7%	81.0%
営業利益	△754	427	+1,181	-	-
営業外収益	200	895	+694	+345.6%	-
営業外費用	827	611	△216	△26.1%	-
経常利益	△1,380	711	+2,091	-	-
特別利益	1,065	2,091	+1,026	+96.4%	-
特別損失	2	31	+29	-	-
税引前純利益	△317	2,772	+3,089	-	-
法人税等	258	1,028	+769	+297.1%	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	△576	1,744	+2,320	-	-
(ご参考) 共同開発先による負担控除前の研究開発費	11,121	14,117	+2,996	+26.9%	79.8%

連結決算概要に関する補足説明

- 売上高は契約金収入が大きく増加
- 売上原価率（契約金除く）は工場の稼働率低下により若干上昇
- 販売・一般管理費は主に共同販売先への手数料等が売上増に伴って増加
- 研究開発費はライセンス権取得に伴う契約一時金の計上により増加
- 営業外収益は主に為替差益の計上により増加
- 特別利益は神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の助成金確定に伴う助成金収入を計上

対売上高	2025年3月期 Q3累計	2026年3月期 Q3累計	増減
売上原価率	27.1%	22.3%	△4.8%
売上原価率 (契約金除く)	25.9%	26.4%	+0.5%
研究開発費率	38.3%	44.1%	+5.7%
営業利益率	△2.9%	1.4%	+4.3%

3

伊藤：伊藤でございます。本日は説明会にご参加いただきまして、ありがとうございます。それでは本日5時に発表いたしました、第3四半期の連結業績についてご説明いたします。

まず今回の決算でございますけれども、売上高は第3四半期累計で303億円、営業利益4億円、当期純利益が17億円でございます。前年同期と比べてみますと増収増益の決算だったということでございます。

ポイントは二つございまして、一つは12月24日にリリースいたしました、Italfarmaco社との契約一時金を計上していること。もう一つは、これもかなり長い時間がかかってしまいましたが、われわれの神戸サイエンスパークセンターの原薬工場。これは補助金を頂戴して建設したものでございますけれども、この補助金がようやく確定しまして、それに伴いまして特別利益に助成金収入ということで計上しております。これにつきましては、それ単独のリリースも本日出ております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



(単位: 百万円)

連結	2025年3月期		2026年3月期		
	Q3累計	Q3累計	前年同期比		年間進捗率
			増減額	増減率	
グロウジェクト®	14,177	13,539	△638	△4.5%	76.1%
イズカーゴ®※	4,456	5,179	+723	+16.2%	80.9%
テムセル®HS注	2,296	2,212	△84	△3.7%	81.9%
腎性貧血治療薬	2,595	2,346	△249	△9.6%	65.2%
エポエチンアルファ BS注「JCR」	1,250	595	△654	△52.4%	54.1%
ダルベポエチン アルファ BS注「JCR」	1,345	1,750	+405	+30.1%	70.0%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	1,149	863	△285	△24.8%	54.0%
医薬品合計	24,675	24,141	△533	△2.2%	75.2%
契約金収入	517	5,249	+4,732	+914.9%	90.5%
その他※	688	961	+273	+39.7%	-
売上高合計	25,880	30,353	+4,472	+17.3%	76.8%

※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

売上高内訳に関する補足説明

- グロウジェクト®、イズカーゴ®、テムセル®
HS注はいずれも堅調に推移
グロウジェクト®の減収は薬価改定の影響
- 腎性貧血治療薬は販売先であるキッセイ薬品
工業株式会社への供給計画に準じた売上高
- アガルシダーゼ ベータBS点滴静注「JCR」は
販売先である住友ファーマ株式会社への供給
計画に準じた売上高
- 契約金収入は契約一時金や既存の契約におけ
るマイルストーン達成によるもの
- その他の増加はNPSプログラムの売上増によ
るもの

4

この決算の中身に入ります前に、次のページで製品別の売上について、まずご説明したいと思います。

まずグロウジェクト、イズカーゴ、テムセルの3品につきましては、いずれも堅調に推移しております。グロウジェクトは135億円の売上、前年比では6億円のマイナスでございますけれども、販売本数としましては前年度を若干上回るペースでございます、主に薬価改定分のマイナスということだと考えております。

イズカーゴにつきましては51億円の売上、前年比で7億円のプラスでございます。テムセルにつきましては22億円の売上、前年比でマイナスの8,000万円でございますけれども、いずれも年間進捗率につきましては、こちらご覧いただきますと堅調に推移していることがご覧いただけるかと思います。

その下のエポエチンアルファ、ダルベポエチンアルファでございますが、いずれも販売先であります、キッセイ薬品工業との供給計画に基づいた売上高でございます、このことにつきましては、その下のアガルシダーゼベータの売上につきましても、住友ファーマへの供給計画に準じた売上高でございます。

エポエチンアルファについては約6億円の売上、前年比ではマイナスの6億5,000万円、ダルベポエチンアルファが17億5,000万円、前年比ではプラスの4億円。アガルシダーゼベータが8億6,000万円の売上、前年比で2億8,500万円のマイナスでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ただ、これら3品につきましてはこのあとご説明いたします業績予想の修正のところで、いずれも売上を修正しておりますので、そこでまたご説明したいと思います。

その下、契約金収入につきましては52億4,900万円でございます、前年比では47億3,200万円のプラスでございます。その他のところ、売上9億6,100万円、前年比で2億7,300万円のプラスでございますが、こちらはNPSプログラムの売上増によるものでございます。

売上高合計は303億円で、44億7,000万円、前年同期よりもプラスでございます。



連結決算概要

Life is Rare

連結	2025年3月期		2026年3月期		
	Q3累計	Q3累計	前年同期比		年間進捗率
			増減額	増減率	
売上高	25,880	30,353	+4,472	+17.3%	76.8%
売上原価	7,007	6,767	△239	△3.4%	72.0%
売上総利益	18,873	23,585	+4,712	+25.0%	78.4%
販売費及び一般管理費	19,627	23,158	+3,530	+18.0%	78.0%
販売・一般管理費	9,702	9,786	+83	+0.9%	74.1%
研究開発費	9,925	13,372	+3,447	+34.7%	81.0%
営業利益	△754	427	+1,181	-	-
営業外収益	200	895	+694	+345.6%	-
営業外費用	827	611	△216	△26.1%	-
経常利益	△1,380	711	+2,091	-	-
特別利益	1,065	2,091	+1,026	+96.4%	-
特別損失	2	31	+29	-	-
税引前純利益	△317	2,772	+3,089	-	-
法人税等	258	1,028	+769	+297.1%	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	△576	1,744	+2,320	-	-
(ご参考) 共同開発先による負担控除前の研究開発費	11,121	14,117	+2,996	+26.9%	79.8%

連結決算概要に関する補足説明

- 売上高は契約金収入が大きく増加
- 売上原価率（契約金除く）は工場の稼働率低下により若干上昇
- 販売・一般管理費は主に共同販促先への手数料等が売上増に伴って増加
- 研究開発費はライセンス権取得に伴う契約一時金の計上により増加
- 営業外収益は主に為替差益の計上により増加
- 特別利益は神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の助成金確定に伴う助成金収入を計上

対売上高	2025年3月期 Q3累計	2026年3月期 Q3累計	増減
売上原価率	27.1%	22.3%	△4.8%
売上原価率 (契約金除く)	25.9%	26.4%	+0.5%
研究開発費率	38.3%	44.1%	+5.7%
営業利益率	△2.9%	1.4%	+4.3%

では1ページ戻って、決算の中身についてご説明いたします。

売上高は今申し上げましたように303億円、売上原価は67億6,700万円で、前年に比べますと2億3,900万マイナスとなっております。ただ売上原価率、右下の表ので、契約金収入を除いた原価率が2段目に出ておりますけれども、これは26.4%で、前年同期比ではプラスの0.5%でございます。

これまで2度の四半期の決算説明で申しておりますように、工場の稼働率の低下により若干上昇しているということでございます。差し引きました売上総利益は235億8,500万円で、47億円、前年同期に比べてはプラスでございます。

販管費は231億5,800万円、うち、まず販売一般管理費が97億8,600万でございます。こちらは8,300万円プラスですけれども、これは主に共同販促先への手数料等の増加でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



研究開発費 133 億 7,200 万円でございます。34 億 4,700 万円のプラスでございます。こちらは
この研究開発費の中に冒頭申し上げました Italfarmaco 社との契約によりまして、ライセンス権を
獲得したことに伴う契約一時金をこの中に計上しております。一方、通常の開発の方は順調に進捗
しております。

その結果、営業利益は 4 億 2,700 万円でございます。営業外収益 8 億 9,500 万円は前年に比べて約
7 億円のプラスですが、主に為替差益の計上によるものでございます。営業外費用は 6 億 1,100 万
円。経常利益は 7 億 1,100 万円でございます。

特別利益としまして 20 億 9,100 万円を計上しております。この特別利益の中には、先ほど申し上
げました神戸サイエンスパークセンターの原薬工場の補助金が確定しまして、それに伴います助成
金収入をここに計上しております。金額としましては約 18 億 8,000 万円でございます。

特別損失は 3,100 万円ございまして、税前の利益としまして 27 億円、法人税等を差し引きまし
て、この第 3 四半期の純利益としましては 17 億 4,400 万円でございます。



2026年3月期 通期連結業績予想数値の修正

Life is Rare

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想	37,800	2,600	2,400	3,000	24.22
今回修正予想	39,500	400	400	1,600	13.12
増減額	1,700	△2,200	△2,000	△1,400	-
増減率	4.5%	△84.6%	△83.3%	△46.7%	-
(参考) 前期実績 (2025年3月期)	33,072	△6,650	△7,477	△4,759	△38.43

予想数値の修正に関する補足説明

- 売上高：腎性貧血治療薬やファブリー病治療薬等が想定を上回る見込みのため17億円上方修正
- 営業利益：売上原価や販管費の増加により22億円下方修正
 - ✓ 売上原価：売上の増加および製品構成の変化等により、前回発表予想から12億円増加する見込み
 - ✓ 販売費及び一般管理費：神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の補助金確定に伴い、確定までに発生した減価償却費を計上したこと、および第3四半期までの実績等を踏まえて、前回発表予想から12億円増額修正
 - ✓ 研究開発費：Givinostat の独占的ライセンス権取得に伴う契約一時金を第3四半期に研究開発費に計上したため、前回発表予想から15億円増額修正

5

それでは今回、同時に発表しました連結業績予想の修正についてご説明いたします。

ご覧いただきましてお分かりになりますとおり、利益について下方修正をさせていただいております。まず売上高ですけれども、これは次のページにお示ししております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



(単位：百万円)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	(参考) 前期実績 (2025年3月期)
グロウジェクト®	17,800	17,800	—	—	18,098
イズカーゴ®※	6,400	6,400	—	—	5,718
テムセル®HS注	2,700	2,700	—	—	2,904
腎性貧血治療薬	3,100	3,600	500	16.1%	3,784
エポエチンアルファBS注「JCR」	800	1,100	300	37.5%	1,690
ダルベポエチン アルファBS注「JCR」	2,300	2,500	200	8.7%	2,093
アガルシダーゼ ベータBS点滴注「JCR」	1,100	1,600	500	45.5%	1,149
医薬品合計	31,100	32,100	1,000	3.2%	31,655
契約金収入	5,500	5,800	300	5.5%	517
その他※	1,200	1,600	400	33.3%	898
売上高合計	37,800	39,500	1,700	4.5%	33,072

※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

6

ここをご覧いただきまして、グロウジェクト、イズカーゴ、テムセルにつきましては、いずれも当初発表の予想どおりという想定でございます。

一方でエポエチンアルファ、ダルベポエチン アルファ、アガルシダーゼベータにつきましては、それぞれ3億円、2億円、5億円のプラスを見込んでいることとございます。これらはいずれもキッセイ薬品工業、あるいは住友ファーマとの連携の中で増額するということとございまして、先方とのお話の中での数字とご理解いただければと思います。

また契約金収入につきましては58億円ということで、もともとの予算は55億円でございますけれども、3億円増額させていただいております。これはこの3月末までに契約一時金として見込めるものがあるということとございまして、その分を増額しているということとございます。

また「その他」16億円の売上ということで、4億円プラスしておりますけれども、これは主にNPSの売上増を見込んでいるものでございます。売上合計としましては395億円で、17億円の増収を想定しております。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想	37,800	2,600	2,400	3,000	24.22
今回修正予想	39,500	400	400	1,600	13.12
増減額	1,700	△2,200	△2,000	△1,400	-
増減率	4.5%	△84.6%	△83.3%	△46.7%	-
(参考) 前期実績 (2025年3月期)	33,072	△6,650	△7,477	△4,759	△38.43

予想数値の修正に関する補足説明

- ・ 売上高：腎性貧血治療薬やファブリー病治療薬等が想定を上回る見込みのため17億円上方修正
- ・ 営業利益：売上原価や販管費の増加により22億円下方修正
 - ✓ 売上原価：売上の増加および製品構成の変化等により、前回発表予想から12億円増加する見込み
 - ✓ 販売費及び一般管理費：神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の補助金確定に伴い、確定までに発生した減価償却費を計上したこと、および第3四半期までの実績等を踏まえて、前回発表予想から12億円増額修正
 - ✓ 研究開発費：Givinostat の独占的ライセンス権取得に伴う契約一時金を第3四半期に研究開発費に計上したため、前回発表予想から15億円増額修正

5

ページ戻ってください。今申し上げますように、売上につきましては 378 億円から 395 億円に 17 億円の増加を想定しておりますけれども、営業利益につきましては 22 億円下方修正をしております。

その要因としまして、まず売上原価です。これは売上の増加によって増加している部分はもちろんございますけれども、製品構成の変化によりまして、より増加が大きくなっていることがございます。当初の予想よりも 12 億円増加すると見込んでおります。

販売費および一般管理費につきましては、何度も申し上げておりますけれども、神戸サイエンスパークセンターの原薬工場の補助金が確定しました。この確定までに発生しました減価償却費を計上しております。ここで計上しておりますとわざわざ申し上げますのは、当初は補助金の確定がもっと期の早い段階で起こると想定しておりましたが、この 12 月までずれ込みましたので、その分の減価償却費を計上しているということでございます。

またこれまでの実績等も踏まえまして、先ほど申し上げました販売のロイヤリティ関係の増加等も踏まえまして、12 億円の増額をしております。

次に研究開発費ですけれども、これは Italfarmaco 社から導入しました Givinostat の契約一時金をこの第 3 四半期に、研究開発費に計上しておりますので、全体で前回発表予想から 15 億円、増額の修正をしております。

連結業績予想の修正につきましては、以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- **デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬Givinostatの開発および商業化**
 - 日本における独占的ライセンス契約の締結

- **希少疾病治療薬についての戦略的提携**
 - 両社のポートフォリオの拡充
 - 当社R&Dパイプラインおよび基盤技術における共同機会の探求

1. 2026年1月23日：イタルファルマコ社との契約に関する説明会を開催 ([リンク](#))

それで先日、1月23日に説明会をさせていただいておりますけれども、去年12月24日に Italfarmaco 社との契約についてリリースしております。これはデュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療薬でございます Givinostat の開発、および商業化の権利をわれわれが得たということでございまして、日本における独占的なライセンス契約の締結でございます。

また希少疾病治療薬についての戦略的な提携も契約しております、これは両社のポートフォリオの拡充、あるいはわれわれの持つ R&D のパイプライン、および基盤技術を用いた共同の機会を探求していこうということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1 既存の治療薬とは異なる作用機序

- 遺伝子変異に依存せず使用可能なHDAC阻害剤

2 海外での承認実績

- 米国、EU、その他主要国での承認¹
- プラセボ対照の臨床試験で示されたエビデンス

3 当社の強みとの相乗効果

- 小児・希少疾病領域での豊富な開発経験
- DMD患者をフォローする医師との強固なネットワーク
 - 既存製品の営業において、DMD患者のフォロー施設を60%以上カバー済み（当社調べ）

4 大きな商業的ポテンシャル

- 日本のDMD患者総数：約3,500名²
 - 6歳以上のDMD患者：3,000名以上³
 - 6歳以上かつ歩行可能なDMD患者：1,000名以上³

DMD, duchenne muscular dystrophy (デュシェンヌ型筋ジストロフィー)

1. 米国：6歳以上のDMD患者を適応として承認、EU：ステロイドを併用している6歳以上の歩行可能なDMD患者を適応として条件付き承認

2. 川井 充. 脳と発達. 2013;45(Suppl.):S324. 3. 右記情報を基に当社にて算出 (Remedy (Registry of Muscular Dystrophy) およびNakamura H et al. Orphanet J Rare Dis. 2013;8:60)

8

先日のご説明と重複いたしますけれども、Givinostat について触れさせていただきたいと思えます。これは経口の非ステロイド性の DMD 治療薬でございます。

既存の治療薬とは異なる作用機序を有しておりまして、遺伝子変異に依存せず使用可能な HDAC 阻害剤でございます。より広範な患者さんにお使いいただける薬剤と考えております。

またこの薬剤につきましてはアメリカ、ヨーロッパ、その他主要国で承認されておりまして、日本から見ればドラッグラグがあって、待ち望まれている薬だと認識しております。臨床試験においても、プラセボ対照で示されたしっかりとしたエビデンスがある薬剤と考えております。

またこの薬剤をわれわれは導入したわけですが、これはわれわれの強みとの相乗効果がある製品だと考えておりまして、われわれはご存じのとおり、これまで小児あるいは希少疾病領域で、豊富な開発経験がございます。また、この DMD 患者さんをフォローするお医者様との強固なネットワークもでございます。既に既存の製品の営業におきまして、DMD 患者さんをフォローする施設の 60%以上を、われわれとしてはカバーしていると考えております。

また、この薬剤は大きな商業的なポテンシャルを持っていると考えております。日本の DMD 患者さんは約 3,500 名と考えております。これは米国では 6 歳以上の患者さんに適応があるということですが、6 歳以上と考えまして 3,000 名以上の患者さんがいらっしゃると。ヨーロッパでは 6 歳以上、かつ歩行可能な患者さんへの適応ですが、そのように考えましても 1,000 名以上の患者さんがいらっしゃるということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

商業的なポテンシャルと申し上げておりますけれども、ステロイドしかない状況において広範に使える薬剤ということでございまして、大きく広く普及することが期待できる薬剤と考えております。また現在、日本で承認されております非ステロイドの薬剤の年間治療コストをご想定いただければ、規模感につきましてはご推測いただけるかなと考えております。

また、いつから上市になるのかということでございまして、先日申し上げましたように2028年までに承認取得を目指しております。

JCR 開発パイプライン

Life is Rare

開発番号	適応症	開発段階				備考
		前臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3	
JR-141	ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)	Global Ph3				・ ~2027年度 米国・欧州・ブラジルでの承認予定
JR-142	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	Ph3 (日本)				・ 患者登録は順調に進行中
JR-171	ムコ多糖症I型 (ハーラー症候群 等)	Global Ph1/2 completed				・ 導出に向けて交渉中
JR-441	ムコ多糖症IIIA型 (サンフィリップ症候群A型)	Ph1/2 (ドイツ)				<ul style="list-style-type: none"> ・ Ph1/2: 当初予定していた投与群での1年間の臨床データを取得 ・ Ph1: 目標症例数の登録完了 ・ 日本での早期の承認取得を目指して対応中
		Ph1 (日本)				
JR-446	ムコ多糖症IIIB型 (サンフィリップ症候群B型)	Ph1/2 (日本)				<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の cohorts の患者登録を完了 ・ 日本での早期の承認取得を目指して対応中 ・ メディバルホールディングスに導出
JR-471	フコシドーシス					<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然歴研究を開始 ・ メディバルホールディングスに導出
JR-479	GM2ガングリオシドーシス (テイ・サックス病、サンドホフ病)					・ メディバルホールディングスに導出
Givinostat	デュシエンヌ型筋ジストロフィー	US, EU等で承認取得済み				・ 2028年までの国内承認取得を目指し、開発計画を当局と相談中

私のご説明、最後のスライドになりますが、開発パイプラインでございまして。

一番上から JR-141、これはグローバルのフェーズ 3 をしてございまして、順調に進捗しております。従来申し上げておりますように、2027 年度に米国、欧州、ブラジルでの承認を予定しております。

JR-142、これは成長ホルモンのウィークリーの製剤ですけれども、患者さんの登録は順調に進行しております。フェーズ 3 でございまして。JR-171、こちらは導出に向けて交渉を進めているということでございまして。

次に JR-441、ムコ多糖症IIIA 型の薬剤でございまして、ドイツでのフェーズ 1/2 におきましては、当初予定していた投与群で 1 年間臨床データを取得しております。日本でのフェーズ 1 でも目標症例数の登録が完了しております。日本での早期の承認取得を目指して、対応をしております。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



また JR-446、ムコ多糖症ⅢB型の薬剤ですが、これは最初のコホートの患者登録は完了しまして、こちらも日本での早期の承認取得を目指して対応しているところがございます、この薬剤につきましてはメディカルホールディングスに導出しております。

JR-471、フコシドーシス治療薬。こちらもメディカルホールディングスに導出している薬剤ですが、自然歴研究を開始しております。

また JR-479、こちらはメディカルホールディングスに本年度導出した薬剤でございます。前臨床の段階ということでございます。

一番下が先ほどお話しいたしました Givinostat でございます、繰り返しになりますが、2028年までのできるだけ早い時期に、国内承認の取得を目指してございまして、開発計画を当局と相談中という状況でございます。

私からのご説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質疑応答

司会 [M]：それでは、これより質疑応答に移ります。最初にアナリストの皆様、そのあとにメディアの皆様からのご質問をお受けいたします。

ご質問の順番がきましたら、私から指名をさせていただきます。会社名とお名前をおっしゃってからご質問ください。なお、ご質問は一问一答形式にて、お1人につき1回2問までとさせていただきますが、何回挙手をいただいてもかまいません。

それでは、質疑応答を始めさせていただきます。でははじめに山口様、お願いいたします。

山口 [Q]：シティ、山口です。よろしくをお願いいたします。一つ目の質問は Givinostat 関連の質問です。ざっくり 15 億円程度の一時金と見てとれるんですけども。契約を開始されていないから分からないのかもしれませんが、今回結構、通期業績予想だけ見ると大幅な下方修正になってしまっているわけなので、この Givinostat について今後は一時金以外は追加的な、一時的なものが発生するのでしょうか。

あるいは来期以降、研究開発をやるかやらないか分からないと思うんですけども、やる場合にはどのぐらいのコストがかかるのかといった、トータルのコスト的なものをもうちょっと教えていただくことは可能でしょうか。

伊藤 [A]：山口さん、ご質問ありがとうございます。契約の内容については開示できないんですけども、一般的な、例えば承認時ですとか、あるいはあるクライテリアを置いて販売がいくらいったときに、いくらという立て付けにはなっております。ただ、それ自体は特に、通常の契約から大きく離れるようなものではないと認識しております。

また開発につきましては、まだこれはどういった開発になるかがはっきりしておりませんので、コスト的にはなかなか申し上げにくいところではありますが、われわれとしてはできるだけ早くと申し上げていることの裏は、できるだけコストをかけずにやっていきたい。そういった計画でやっていきたいと考えているということでございます。

谷澤 [A]：試験に関しましては、現時点で検討中でございますけれども、大規模なものという想定は今のところはしておりません。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

山口 [Q]：ありがとうございます。二つ目が JR-141 の中間解析です。確か 26 年の前半に出てくるんじゃないかかと、うろ覚えですけれども、それは何か進捗して現在ありますか。予定どおり出てきそうかどうかとか、いただけますか。

伊藤 [M]：今おっしゃったのは、60%の患者さんを対象にした中間解析。

山口 [M]：そうです。

伊藤 [A]：それについては 2 年の経過をして、経過をしている途中でございまして、順調に進んでいるということだと思います。

山口 [Q]：これは 2026 年の前半なので、まとめ次第、開示されるという。前半といってもいつかは分かりませんが、というご予定でよろしいでしょうか。

伊藤 [A]：その件につきましては、われわれとしては当局とのいろんなこれからのステップについて話をしているところでございまして、これ以上申し上げることは特にございません。

山口 [M]：分かりました。ありがとうございます。

司会 [M]：山口様、ありがとうございました。それでは、続いてのご質問を村岡様、よろしくお願いいたします。

村岡 [Q]：ありがとうございます。モルガン・スタンレー、村岡です。私も Givinostat をまず教えてください。前回の、1 月 23 日実施の『2025 年 12 月 24 日公表の Italfarmaco 社との契約に関する説明会』に参加できなくて、説明会のノートを読んだだけなのですが、先ほど来期以降の R&D コストのところ、確か前回のときに R&D 負担は、JCR はないんだみたいなコメントが、ちょっと御社からあったように理解しているのですが、それは私たちの勘違いでしょうか。まず、そこを教えてください。

谷澤 [A]：ご質問、ありがとうございます。谷澤でございます。開発費に関しましてはご認識のとおりで、JCR ではなくて先方の負担になっております。

村岡 [Q]：ということは、4 月から始まる来期以降の R&D 費用の増加にはならないけれども、マイルストーンの支払が発生するときは、御社は J-GAAP なので、そのときにポンと R&D 費で乗ってきますよという理解でいいのでしょうか。

伊藤 [A]：先ほどの山口さんのご質問で、開発計画等について私はお話ししましたが、おっしゃるとおり、開発費につきましてはわれわれの負担はないということでございます。先ほど混乱を生じさせたかもしれませんが、訂正させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



それで、今後のマイルストーンが乗ってきた場合には研究開発費の計上となりますが、これもいつ入る、何に対して費用計上になるのかということがございまして、今回は開発費に計上しておりますけれども、例えば承認以降、一時金を払うということになれば、これは資産計上できますので、資産計上して償却していくかたちになります。それはどの時期に支払うのかによっても、変わってくるということでございます。

村岡 [Q]：ありがとうございます。もうちょっとだけ、そこを深掘りさせてください。来期、再来期の私の予想に影響しそうなので。

つまり発売予定は2028年度だったと思うので、来期のGivinostatでのR&D費の増加はない。2027年度もぎりぎり申請できればあるかもしれないけれども、ない。2028年度に申請マイルストーンで一時金が発生する、そのときはちょっとR&Dが増えますよという想定をするのが、とてもナチュラルだと私は思うのですが。何か私のこの勝手な想定にコメントをいただくと助かります。

伊藤 [A]：なかなかコメントさせていただくのが難しいところではありますが、そうなりますとそれは一時の費用として計上されるのか、それとも資産計上してアモタイズされるのかというところが、会計的には一つのポイントかなとは思いますが。

2028年という想定でお話し申し上げるとすれば、今おっしゃったようなことはそんな感じかなとは考えられると思いますが。お答えになっていないかもしれませんが、以上、回答させていただきます。

村岡 [Q]：ありがとうございます。もう1個だけ、Givinostatで。これも先日の説明会のときに、アメリカでは20%のシェアとおっしゃっていたと理解しているんですが、これは患者数のシェアなのか、売上のシェアなのか。何のシェアでしょうか。

歩ける人の中のシェアなのか、6歳以上のシェアなのか。そんなに売上のある製品だとは思いますが。どの段階、エレビジスがモメンタムを急速に失った月のシェアなのか、なんだかよく分からないので、もう一度教えてください。

伊藤 [A]：これはItalfarmaco社からの話ですけれども、アメリカでは承認されたのが2024年3月だと思えます。ですから去年末まで1年9カ月ぐらいですけれども、その段階での患者さんに対するシェア。もっと簡単にいうと、要するに5人に1人の患者さんがこの薬剤を使っているところまで、その1年半とか1年9カ月で普及している意味で申し上げたということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

村岡 [Q]：アメリカの DMD の患者さんは、そうすると 1 万 5,000 人だったと思うのですが、つまり 3,000 人が使っているということでもいいんですか、このお薬。

伊藤 [A]：その分母をどう想定するかはあるかもしれませんが、基本的にはそういうことになります。

村岡 [Q]：そうすると別の質問で、これの使用期間は短いのでしょうか。リアルワールドでの使用期間です。

谷澤 [A]：そうですね。承認されてからの使用期間は、まだ先ほど申しあげましたように 1 年 9 カ月ぐらいとなりますけれども、使用自体は生涯続けていく剤となります。

村岡 [M]：分かりました。もう一度計算し直してみます。とりあえず 2 問質問しましたので、ここでいったん終わらせていただきます。

司会 [M]：村岡様、ありがとうございます。それでは続いて橋口様、よろしくお願いします。

橋口 [Q]：大和証券の橋口です。よろしくお願いします。一つ目が開発パイプライン、9 ページのスライドで今回ご説明いただいた、JR-441 と JR-446 の日本での早期の承認取得を目指して対応中という言葉の意味についてです。

これは今まではこういったご説明はなかったかなと思うんですけれども、このたび実施されたフェーズ 1 ないしフェーズ 1/2 試験の結果をもとに、早期条件付承認を取ることを目指していらっしゃるという理解でいいのかということ。それから現時点で、そうした申請に足るデータは得られているのか、あるいは今後得ることを期待されている状況なのか。

それぞれ剤によって状況が違うのかもしれませんが、もう少し詳しく教えていただけないでしょうか。

伊藤 [A]：橋口様、ご質問ありがとうございます。今おっしゃっていただいた点につきましては JR-441、JR-446 とともに日本での条件付の早期承認を目指しているということでございまして、このフェーズ 1/2 から得られるデータをもって、そういったことが可能なのではないかと考えているということでございます。

橋口 [Q]：もう、そういうデータは得られたのでしょうか。それともまだデータはまとまってなくて、そういうデータが得られることを期待されている状況でしょうか。

伊藤 [A]：そこは今、詳しくは申し上げられないんですけれども、この試験の進捗に応じて出てきたデータをもって、承認取得、申請をしたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

橋口 [Q]：いつ頃の申請を現時点で目指されているかという、具体的な時期についてコメントはいただけますか。

伊藤 [A]：申し訳ありませんが、それについて今はコメントできません。

橋口 [Q]：ありがとうございます。もう1点が売上予想の修正の中で、販売会社のキッセイ薬品さんなどとの話合いの結果というコメントをされたと思うんですけども、この意味も教えてください。

次の期からの前倒しのようなかたちでいったん収めるということなのか、あるいは薬価改定の内容がだいぶ見えてきて、価格について従来想定と変わったということなのか。来期以降の見通しにどのような影響があるような話なのかも含めて、可能な範囲で教えていただければと思います。

伊藤 [A]：承知しました。まずエポエチンアルファ、ダルベポエチンアルファにつきましてはご案内のとおり、中外製薬さんのこの分野の薬剤が販売中止をされるということでございます。中外製薬さんのエボジンが販売中止されるというアナウンスがございまして、それによってこちらのエポエチンアルファ、あるいはダルベポエチンアルファに需要が増えるのではないかと、想定されているということだと思います。

それによってキッセイ薬品さんからの、話合いというか、定期的に情報交換をしておりますので、それで追加でのご注文といいますか、売上が想定されるということでございます。

アガルシダーゼベータのほうも、医療機関への住友ファーマさんの売りが好調だということで、上方に修正されたということでございます。

橋口 [M]：分かりました、ありがとうございます。以上です。

司会 [M]：橋口様、ありがとうございました。それでは続いてのご質問を前田様、よろしく願いいたします。

前田 [Q]：お世話になっております。野村證券の前田です。まず1問目、契約金の計画修正について伺いたいです。今回新たに3億円増額修正となっていますけれども、こちらは従来、もともと結んでいるような契約の延長のようなかたちか、それとも完全に新規で契約された内容なのかを教えてくださいたいです。

あるいはもし、もともとあると思っていたものがなくなったとか、そういったプラスマイナスもあれば、それも含めて教えていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

伊藤 [A]：承知しました。今回3億円プラスしておりますのは、新しい契約でございます。これは従来交渉してきたものでございますけれども、今期中に契約締結に至るのではないかなという確度が高まったと想定しまして、増額しているということでございます。

前田 [Q]：これはアキュメンとの共同研究の延長線とか、そういうものではないと理解してよろしいでしょうか。

伊藤 [A]：従来のものの延長線ではないとご理解ください。

前田 [Q]：分かりました。もう一つ、研究開発費についてなんですけれども、今回導入をされているということで、導入したアセット、あるいは将来的な導入による契約一時金等のこうした一時費用で、研究開発費がでこぼこしやすくなるのかなと思ったのですが。

御社の会計の考え方として、契約一時金と導入関連の一時費用をぶつけて相殺するとか、あるいは研究開発費は一定の水準で抑えるとか、あるいは最終利益のところになんとかプラスに持ってくるとか、そういった何か考え方のようなものがあれば、ご教示いただければと思います。

伊藤 [A]：まずは会計上の取扱いですけれども、われわれは日本基準ですので、承認されていない薬剤を導入した場合の一時金については、これは費用計上しなければならないということでございます。

これは研究開発費のプラスになるわけですが、これは当然に将来への投資ということでございますので、その投資の効果を見込んで、投資すべきかどうかを決めているわけです。それが非常に大きな効果があると考えれば費用を増やしてでも、利益を削ってでも導入すべきだという判断をした場合には、そのように費用が増えて利益が減っても、これは導入するというところでございます。

お答えになっておりますでしょうか。

前田 [Q]：ありがとうございます。そういう意味では25年3月期に最終赤字になっている中で、26年3月期も、あるいは27年3月期以降も、そのリスクをわれわれは考えておかなければいけないということでよろしいでしょうか。

伊藤 [A]：当然ながら赤字にしない、利益を確保するということは、常に考えておりますので、そうできるようにしていきたいと思っています。

昨年大きな赤字を出して、大変ご迷惑をおかけしておりますけれども、そういったことがないようというのは常々考えていることでございます、その範囲でどこまでできるのか、いろいろと

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ころを調整しながらということもあるかもしれませんが、基本的にはそういうことを考えてやっていくことを考えております。

前田 [M]：分かりました、ありがとうございます。私からは以上です。

司会 [M]：前田様、ありがとうございます。それでは続いてのご質問を山木田様、よろしく願いいたします。

山木田 [Q]：ジェフリーズ証券の山木田でございます。ありがとうございます。私から1問目、Givinostat についてです。

アップフロントの額が、米国で20%シェアを取っているというポジティブな数字を聞いたあとだと、ちょっと少ないなと思ったんですけれども、Italfarmaco 社、別にバイオテックの会社ではないわけなので、そんなにキャッシュは必要としていないので、ロイヤリティであったり販売マイルストーンであったり、後半のところに支払が集中していると考えても、そんなに変な考え方ではないでしょうか。何かコメントいただけることがあれば、お願いします。

伊藤 [A]：ご質問、ありがとうございます。その点につきまして詳細は申し上げられませんが、特にテールヘビーになっている、あとに重くなっていることも一般的なものと比べて特にそういうことはないんじゃないかと思います。

ただ今回、Italfarmaco 社との間では、この一つの薬剤の契約にとどまらず、長期的なパートナーシップを結ぼうということでもございまして。今おっしゃいましたように、先方は低分子中心とした会社で、われわれはバイオ医薬品の会社でございます。ですから、そういった両者の得意分野の違いにも注目をいただいている、それによって今後、いろいろな提携ができるんじゃないかということに期待していただいている、そういった上での契約だと理解しております。

山木田 [Q]：であれば共同研究のところの、どちらがどちらかに払うかというところはあるんですけれども、Italfarmaco 社が御社に払うとしたら、それと相殺した数字と見たほうがいいですか、この数字は。

伊藤 [A]：これはこれで当然、独立した契約ではありますけれども、そういった将来的ないろいろな協力関係にも期待していただいている、契約だということは言えると思います。

山木田 [Q]：理解できました。ありがとうございます。2点目、イズカーゴについてです。これは単価が伸びているということはあるのでしょうか。結構、売上好調かなと思うんですけれども、4Qはややコンサバに見えるんですけれども、計画も修正されていなくて、もし単価が伸びていて好調なのであれば、何か修正されていない理由はあるのでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

伊藤 [A]：今年度の場合は、イズカーゴについては第1四半期にかなり増加しまして、そのあと、これを見て分かりますように、患者さんの数的にはほぼ横ばいとなっておりますので、その辺りを反映したと思います。

山木田 [M]：分かりました、ありがとうございます。私からは以上です。

伊藤 [M]：ありがとうございます。

司会 [M]：山木田様、ありがとうございました。それでは続いてのご質問を村岡様、よろしく願いいたします。

村岡 [Q]：2周目、ありがとうございます。確認というか、来期の考え方になってしまうのですが、競合の RegenxBio と Denali が来月と4月に PDUFA を迎えるわけですけれども、JR-141 の契約が取れそうですかという話の裏表の質問なのですが。

仮に RegenxBio と Denali が2連敗したときは、御社は割とすぐにサインしてくれそうな相手が、もうめどが立っているのでしょうか。であれば、例えば5月の段階にしっかり一時金が見込めますよみたいな話を聞けるのでしょうか。仮定すぎる質問で大変恐縮なのですが、来期を考える上でとてもクリティカルなものなので、何かヒントをいただくと助かります。

伊藤 [A]：ご質問、ありがとうございます。よそ様の会社がどうなるかについては、どうこう言う資格はありませんけれども、おっしゃったような想定のとときにどうなるかですけれども、それはいかんとも申し上げにくいのが正直なところでございまして。

当然、今いろいろと話をしている先はございますけれども、そのことがどう影響するかはなかなか。だからといってそんなに4月、5月みたいな話があるのかということ自体は、なかなかお答えしにくいというのが正直なところでございます。すみません。

村岡 [Q]：2社とも駄目なときには、特にサインしてくれるところまで今、いえるような相手がいるわけではないという理解でいいですか。

伊藤 [A]：それについてはいるともいないとも、いかんとも申し上げられないのがお答えになるかと思えます。

村岡 [Q]：分かりました、ありがとうございます。もう一つ、これも一時金絡み的な質問なのですが、JR-446、MPS の III B です。これも日本の承認取得に向け対応中という言葉だったのですが。これはメディカル提携品なわけなので、これって申請できたら仮に次年度、これからの新しい期で申請できたら、大きなマイルストーン収入が期待できるような立て付けなののでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



メディパル提携品でここまで進んできたのがないもので、過去ケースが分からないのですが、どう
いう期待を持てばよろしいでしょうか、業績面で。

伊藤 [A]：ありがとうございます。メディパルさんとの契約の中身についてはお話しすることがで
きないんですけども、承認されれば当然、日本で売上が立つことになるわけですけども、ただ
金額的に日本単独でとなりますと、そんなに患者さんの数が多いわけではありませので、そうい
うことは勘案する必要はあるのかと。

ただ、我々としてはそういったものであっても非常にありがたいものであることは、間違いない
と。売上のにはありがたいものであることは間違いないことは、いえると思います。

村岡 [Q]：分かりました、ありがとうございます。これも何の根拠で質問するのかという話でもあ
るのですが、最近ヘルスケア領域でバイアウトの話、マネジメントバイアウトであったり、ファン
ドのバイアウトであったりという話がかかり日本でも増えてきていると思うのですが。

まさに御社の今置かれている状況、ちょっとした R&D 費の変化で業績が激しく上下して、資本市
場とうまく会話ができない状況が続いているのですが、この最近のバイアウトが増えている状況に
対して、何か御社として思う部分があれば一言、二言いただけると嬉しいのですが、いかがなもの
でしょうか。

伊藤 [A]：今おっしゃったように、研究開発費が増えることによって業績が大きく変動しますよね
ということは、おっしゃるとおりだと思います。そういったご指摘は多くいただいておまして、
基本的にわれわれの収益の基盤が不安定だということが問題だと考えています。

そのことによって契約金に頼った損益の構造になっているということでございまして、そこをいか
に脱却するかが、われわれにとっての一番、非常に大きな課題だと考えております。

そういう意味でいいますと、今回の Givinostat を早く開発して、日本で上市に持っていくと。そ
れによって利益や、この薬剤は本当にわれわれの売上とか利益の数字を様変わりさせるような、ポ
テンシャルのあるものだと考えておりますので、そういったことを実現する。あるいはこれも少し
先の話になりますけれども、サンバイオさんとの、彼らの製造を受託する想定をしておりますアク
ーゴといったものを実現していくことで、損益の基盤を安定させて、先ほども一時金が増えたらど
うなるのかというご質問がありましたが、そういったことにも耐えられる財務の状況、損益の状況
に早く持っていききたいなということ。それが非常に大きな課題だと考えているということでござい
まして、そのためにいろんな打ち手を打っていききたいとは考えています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



村岡 [Q]：ありがとうございます。資本市場からいったん距離を置かせてもらうみたいなことは、考えていないということで大丈夫ですね。

伊藤 [A]：現時点ではそのようには考えておりません。

村岡 [M]：分かりました、ありがとうございます。以上です。

司会 [M]：村岡様、ありがとうございました。続いてのご質問は前田様、よろしくお願いいたします。

前田 [Q]：2回目、ありがとうございます。アキュメンとの共同研究について伺いたいですけれども、契約当初、思っていたとおりのスピード感で進んでいるのかを伺いたいです。

特に彼らが 2026 年初頭までに取得予定としているノンクリニカルデータが、取得に向けてしっかり進捗しているのか。もし何かボトルネックが発生しているとしたら、どんなものなのか。この辺り、何かヒントをいただけると幸いです。よろしくお願いします。

伊藤 [A]：アキュメンとの契約の進捗については、当初想定したものと特に変わりなく進行していると聞いております。

前田 [Q]：それ以上は、なかなかコメントしづらいということですか。

伊藤 [A]：そうですね。それ以上は、なかなか申し上げにくいところでございます。

前田 [M]：分かりました。ありがとうございます。

司会 [M]：前田様、ありがとうございました。続いてのご質問は山木田様、よろしくお願いいたします。

山木田 [Q]：2回目、ありがとうございます。ちょっとぼんやりとした質問かもしれないですけども、最近 FDA で希少疾病の臨床試験のところに、ベイズ統計の統計解析方法を導入して、有効性があるかどうかの判断基準をちょっと柔軟にしていこうであったり、あとはしっかりと検出力がある試験であれば、臨床試験の回数を減らそうだったり、そういった新しい臨床試験のかたちについて、議論がいろいろされているようです。

御社はそういった新しい手法は、どのぐらい積極的に取り入れられる体制が今、整っていますか。米国でそういったところについて、FDA と結構議論しているということが明確にあるのか。それとも前例が出てきてから慎重にいくのか。何か方針があればお願いします。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ベイズのところとかは、御社のアセットに結構かかわってくるかなと、もし導入されたら、実用化されたらと思ったので、お伺いさせていただきます。

伊藤 [A]：山木田様、どうもご質問ありがとうございます。私としてはそういったことに非常に詳しく精通しているわけではございませんけれども、われわれアメリカにもレギュラトリーの間を置いておりますので、その辺りの情報収集はしているところでございます。

そういったものが、いろんな新しい動きが出てきていると、希少疾病に関して、ということは聞いておりますので、そういったことでわれわれの開発を加速化するようなところに役立つものがあれば、それについてはできるだけ挑戦していくことは考えていきたいと思っております。

山木田 [M]：分かりました、ありがとうございます。私からは以上です。

司会 [M]：山木田様、ありがとうございます。続いてのご質問は山口様、よろしくお願いいたします。

山口 [Q]：山口です。1個確認というか、JR-171は、進捗、導出交渉に向けてのこの3カ月間の進捗はございますか。

伊藤 [A]：ご質問、ありがとうございます。JR-171については特にこの3カ月間で、何か特別申し上げることはございません。

ただ、これに興味を持っていただいている先はいろいろとございまして、また、良いお知らせをできるように早期になればいいなとは考えておりますが、ご質問に対してはこの3カ月間、特に進捗として申し上げることはございません。というのがお答えになると思っております。

山口 [Q]：ありがとうございます。さっき村岡さんもありましたけれども、JR-141も特に進捗はないんですか。競合等々、いろいろありますけれども。

伊藤 [A]：JR-141についても、今日現在、何かお伝えできるようなことは特にはございません。これも、鋭意進めているというところではございまして、できるだけ早くお知らせできるようになればいいなとは考えています。

山口 [Q]：分かりました。ということは来期とか再来期とか、時期的にはまだ特定できる状況ではないということですね、御社からは。

伊藤 [A]：今、そういうことについてコメントできるわけではないということではございます。

山口 [M]：分かりました。ありがとうございます、以上です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



司会 [M]：山口様、ありがとうございました。その他、ご質問はございますでしょうか。それでは、メディアの方も含めましてご質問をお受けしたいと思いますが、どなたかご質問ある方はいらっしゃいますでしょうか。

それではオカダ様、よろしくお願いいたします。

オカダ [Q]：お世話になります。薬事日報のオカダです。アガルシダーゼベータのところ、これまで8億6,000万円の売上で、上方修正して16億円で倍ぐらいに第4四半期でなるのかなというところで。

先ほど医療機関への売りが増えているというお話があったと思うんですけども、もうちょっと何か要因といますか、教えていただけることはあるでしょうか。

伊藤 [A]：これにつきましては先ほど申し上げましたように、住友さんにおける需要が増えていることでの上方修正でございます。これは実際に販売しておられるのは住友さんでございますので、特にわれわれのほうから述べさせていただくことは、それ以上はございません。

オカダ [M]：分かりました、ありがとうございます。

司会 [M]：オカダ様、ありがとうございました。それでは続いてのご質問をナリタ様、よろしくお願いいたします。

ナリタ [Q]：日刊薬業のナリタと申します。アクーゴの件でおたずねしたいです。今、サンバイオさんとの間で、試製造にかかわる製造委託契約を結ばれていると思うんですけども、これからの製造スケジュールなどについて、何か決まっていることがもしあれば、現段階で公表できる範囲で結構ですので、よろしくお願いいたします。

伊藤 [A]：それにつきましては、今の状況としましては試製造の契約をしているところから変わっておりません。これはそう遠くない時期に、時期は特定できませんけれども、商用的な生産をする契約を結ぶことになるのではないかなとは考えております。

ですから、そうなれば具体的なお話ができるようになるのではないかなとは思いますが、今のところはあくまでも試製造の契約をしている状況でございますので、特に具体的なスケジュール等についてお話しできるところはございません。

ナリタ [Q]：承知しました。来年度に契約とか、その辺りもご公表は難しそうですねでしょうか。

伊藤 [A]：早くできればいいなとは思いますが、どの時期にとは今、コメントができないことをご理解いただければと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ナリタ [M]：承知しました。ありがとうございます。

司会 [M]：ナリタ様、ありがとうございました。その他、ご質問いかがでしょうか。ご質問がないようでしたら、少し時間は余っておりますが終了とさせていただきますが、いかがでしょうか。ありがとうございました。それでは、以上で質疑応答を終了とさせていただきます。

では以上をもちまして、JCR ファーマ株式会社、2026 年 3 月期第 3 四半期決算説明会を終了とさせていただきます。皆様、本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

伊藤 [M]：ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com